
カアデイスからの手紙（116/1＝最終回・其の1）

2006年7月30日

「レガッタ」の巻

第50回の Tall Ships' Races は7月6日から9日にフランスの Saint-Malo サン・マロで行われた開会行事を皮切りに、まず其処からイギリスの Torbay トーベイを経由してポルトガルの Lisboa＝リスボン迄がレース第一レグ。

そして、リスボンからカアデイス、及びカアデイスからスペイン北西部の La Coruña＝ラ・コルーニャ間は Cruise in company＝クルーズ・イン・カンパニー。La Coruña からベルギーの Antwerp＝アントワープ間がレースの第2レグです。



クルーズ・イン・カンパニーとはレースの参加船がお互いの trainee＝訓練生を交換したり、行く先々の港からの招待客を乗せたりして、レースを離れてノンビリする親

善航海のことです。

私達の友人 Reinoud レイノウドの乗組む Europa オイローパにはリスボン～カアデイス間の親善航海でカアデイス市民20名が乗っていたそうです。上の航路図を見てください。点線で描かれたルートがその親善航海クルーズ・イン・カンパニー、そして、実践部分がレース区間です。

*

レガータ(regata=レース=帆船祭り)の前日25日のカアデイス地元紙は16頁もの特集を組んでこの行事の詳細を解説していました。レースコースも解説図付きです。

場所を説明するのはこんな風に地図を見せるのが一番早いと思いますが、スペインのテレビではそれが実に少ない。専ら話と映像だけ、これが地図マニアとしては甚だ不満でしたが最近は少し改善されつつあるような気がします。この地元紙の扱い方は極めて当たり前でした。大満足。(上の図は会場内の看板、新聞のはもっと詳しい)

モウ一つ、地方新聞紙上で見るとは思いもよらなかったのが次の解説図。



この画像では字は到底読み取れませんが、これはスペイン海軍の誇る練習船ファン・セバ스티アン・デ・エルカノ Juan Sebastián de Elcano で、その帆装をセーラー一枚一枚の名称に至るまで、見開き頁で大きく且つ詳細に解説していました。そしてまた、そのほか大小様々な帆船の型の名前と特徴なども図解説明です。

*

日本では一地方新聞に、帆船についてこれほど詳しい解説が載ることがあるでしょうか。私達は残念ながら見たことがありません。この辺がやはり海国ニッポン・我は海の子の大嘘たる所以で、コト海や船に対する関心の高さでは欧州諸国特に英・西・蘭・独・伊・葡・瑞・諾などの海洋国には遠く及ばないところでしょう。

既に外航船員は殆どいないも同然、商船大学という名称すらもなくなっただけの日本で、国民の海事知識を云々するのは、死児の齢を数えるにも等しいことですが、かつてその世界に籍を置いたものとしてはなんともやりきれないものを感じます。

一方欧州諸国はどうか？ 英・独・蘭などかつての海運先進国もコストの高い自国人船員を使っては到底国際競争に勝てない、だから、何処も同じ合理化路線で自国船員は最小限度しか残っていない筈です。しかし、一般国民の海事に関する知識や関心について、日本とは大きな違いがあることは確かなところではあります。

日本だって日本丸・海王丸の二隻の大型帆船が現存し、その他、歴史の上では数々の帆船が名を連ねる、極東では随一の帆船王国だったはずですが、今後の見通しは極めて暗いと言わざるを得ないでしょう。残念なことです。

*



参加全船の係留位置を示した案内図。図を使っての説明がキラキラしい人たちも海事関係では使わざるを得ないか？ 左下の赤・白・黒の矢印を憶えといて下さい。

*



開幕日朝、商港への入り口、プラーサ・セビージャ Plaza Sevilla。(赤矢印から)



港内に足を踏み入れるとこの通り。上の写真は港内案内図の白矢印の位置でのもの。

手前から2隻目茶色のマストがスペイン海軍の練習船 Juan Sebastián de Elcano。

*



こちらは黒矢印から見たところ。港内はどこもかしこもマスト、マスト、マスト。



26日開会日にはスペイン海軍練習船ファン・セバスティアン・デ・エルカノは国王ファン・カルロス一世座乗での入港だったらしい。国王は海軍総司令官だから当たり前と言えば当たり前ですが、この王様は帆船練習船が特にお好きらしい。

以前マラガのピカソ博物館開館式当日もエルカノ座乗でマラガに入港したのがTVで放映されていました。今回も案内パンフではそうになっていたようですが、会期中はTVニュースもろくろく見なかったので確認は出来ませんでした。

開会セレモニーの最中は港内にはいたんですが、同時進行でこの航空ショウがあったのでそっちに気を取られていました。気が付いたらエルカノの号砲連発で式典は終わっていました。

*

お祭り好きのスペイン人の中でもカァディスという土地柄は特別その度合が大きいらしい。知り合ったスペイン人の誰しもそう言うし、カァディスの土地者も半ば自嘲的にそう言うのを何回も耳にしています。とにかく、この数日間のバスの混みかた道路の渋滞は只事ではありませんでした。

私達がここにいた2年間では一番の混雑だったと思います。セマナ・サンタやカルナバルの時も交通機関の混雑は相当なものでしたが今回ほどではなかった。それはセマナ・サンタやカルナバルの見物場所がほぼ全市に広がるのに対して、帆船祭りレガァタは港一点に集中していたためと思われる。

そうは言ってもやはりこのレガァタが全国的な関心の的であることは歴然で、第50回の記念の行事であるこのお祭りが行われるのは、スペインではカァディスと北のラ・コルーニャの二港なので、スペインの南半分の帆船好きがこのカァディスに押し寄せたらしい。近所の四つ星ホテルも満員盛況のようでした。

*

どこのバス停も蜿蜒長蛇の列で、乗り切れず置いてかれた人、既に超満員のバスに素通りされた人などの仏頂面がずらっと並んでいました。99%の人がバスの来る方角をコワイ顔でギッと睨んでます。つい無意識にそうなっちゃうんですね。

バスは開会数日前から行き先とレガァタ2006の文字が電光板に交互に表示されていました。幸い私達のピソは二つの路線の始発点に近いので、毎日の港参りもそうひどく難渋しませんでした。

*



まあ、イザとなりゃ小一時間歩けばいいんだし、第一スペインで、バスが来ない、なんてことではモウちっともオドロキもイラついたりもしません。だから、コワイ顔もしてなかったはず。Rの本性を知らないスペインの人たちはハポネスは人間が出来てるナーと思ったかも・・・。

容量制限一杯になってしまいました。帆船の写真は索具が多いのでどうしてもファイル・サイズが大きくなってしまい、少々縮小してもこの始末です。

続きは116の(2)をご覧ください。
